



社会福祉法人 無何有の郷 特別養護老人ホーム 杜の家

施設概要

- 開 設: 2012年4月1日
- 全室個室ユニット型施設
- 入所定員: 100名(11ユニット)
- 平均要介護度: 3.91
- 介護職員: 41名
男性9名 女性32名
- 介護職員平均年齢: 46.59歳



施設理念:

「尊厳ある高齢者ケアの実践」
「インフォームド・コ・オペレーション」
「質の高い実践者の育成」

地域密着型特別養護老人ホーム「杜の家別館」(2020年7月1日開設 全室個室ユニット型 3ユニット定員29名 ショートステイ1ユニット定員10床)を併設

2年目の変化

体制づくり・教育

- ①ケアマネ2名入職、メンバーに加わる。多職種対面でのカンファレンスを再開。
- ②実技研修参加者新メンバーに交代。
- ③地域連絡協議会でコアメンバー2名が実技講習を受けることができた。

介護技術

- ④新入居時、元の病院や施設での移乗方法を具体的にアセスメント
- ⑤ベッドの高さ調節をほとんどの職員が行えている。

福祉用具

- ⑥福祉用具が徐々に揃う。
- ⑦床走行式リフト1台 レンタルスタート
- ⑧マニュアル作りがスタート

まだまだ...

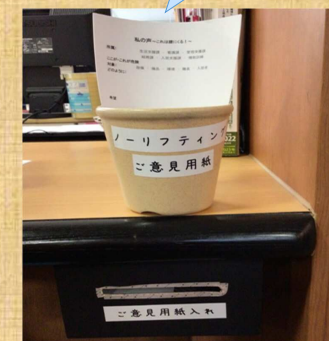
- ・技術を広げる技術指導者の育成
- ・リスクマネジメントで重要なヒヤリ(私の声)の収集
- ・職場安全衛生委員会と**共同のラウンド**と環境整備
- ・「ノーリフティングケア」の**認知と定着**
- ・腰痛保持者なし

マネジメント
学習会

私の声

みんなで知ろうノーリフティング・リスクマネジメント				
項目	正解	解説	正解率 (%)	
1. 介護現場は「リフトやスライディングシート」などの設備を備えたケアを実施しているが、必ずしも安全である。特に高齢者やリスクの高い利用者には注意が必要である。	○	設備に頼るのではなく、リスクマネジメントとして適切なケアを実施することが重要である。リフトやスライディングシート・専用搬送車などを用いたケアは必要だが、それだけでなく、利用者や介護者の安全を確認し、適切なケアを実施することが重要である。	97.7%	
2. リスクマネジメントは、介護現場でリフトやスライディングシートを使用する際に、必ずしも必要である。	×	リスクマネジメントは、介護現場でリフトやスライディングシートを使用する際に、必ずしも必要である。リスクの低い利用者や介護者の安全を確認し、適切なケアを実施することが重要である。	88.0%	
3. 日々の業務の中で「安全確認」を行う「ケアの原則」として、必ずしも必要である。	○	日々の業務の中で「安全確認」を行う「ケアの原則」として、必ずしも必要である。リスクの低い利用者や介護者の安全を確認し、適切なケアを実施することが重要である。	96.8%	
4. リスクの低い利用者や介護者のケアには、必ずしも必要である。	×	リスクの低い利用者や介護者のケアには、必ずしも必要である。リスクの低い利用者や介護者の安全を確認し、適切なケアを実施することが重要である。	97.7%	

10月の全体会議で
結果を口頭で説明。
その後、職員のロッ
カー付近に掲示



■ 今年度のトピックス No. 1

■ 実技研修参加者 新メンバーに交代

今年度は、看護師と介護士の2名で受講

私は腰痛持ち。
できるかしら
(Y介護士)

できるかわか
らないけど学
んできます
(Sナース)

2名は、多忙な業務の中、**事前学習**をして技術研修へ。

研修では頭で理解できていても思い通りにできず涙が出そうだったと…。

北九州地区連絡協議会では
コアメンバー2名が
実技を学ぶ機会を得て、
4名で試行錯誤



3回の実技研修 終了

全部できるようになるまで時間がかかるかもしれないけど、絶対いいです。みんなに知って欲しい

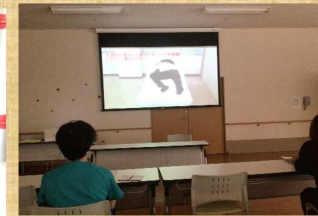
知ることができてよかった。2人いればお互い助け合えます。これからも協力していきます

「腰が楽になった！」
まだ身体の使い方に気をつけているくらいだけど全然違うんです。**入居者様も痛くない感じ」(Y介護士)**

2人で**伝達研修**の開催や**内部研修**でノーリフティングケアを組み入れるなど積極的に活動を行っています。

必要と感じたことが原動力・推進力になっています

ビデオテキスト視聴



■ 今年度のトピックス No. 2

■ リフト レンタルスタートで本格化

①デモ体験が「ひと事」を「**我が事**」へ変える。

「楽だけど、時間がかかる。」
「器械を取りに行くのも面倒」
「慣れればいいのかもね」

「ひと事」

→リフト導入前の使用期間の体験で「**我が事**」へ

②はじめは意思疎通の図れる方から

背が高く支持力のない男性入居者と、体重のある女性入居者。この方々はY介護士のユニット入居者。他の職員も繰り返し、繰り返し。

③休職者復帰も大歓迎

このユニットに手術を受けた職員が職場復帰。

抱え上げなどではできない。

しかし、「これがあればできるんです」

Y介護士所属ユニットリーダー
N介護士

Yさん一生懸命やってるし他の職員も入居者も楽そう。うちのユニットから発信します



■ 今年度のトピックス No. 3

■ 身近な福祉用具の導入

膝痛対策！

膝を悪くしていた職員から助けを求める声。

トランスファボードのデモ器で、負担が軽くなることを実感。

ここから導入を決め拡散開始。



まだ滑らせているだけだけれども、基底面を広くとることや身体の方向、重心移動もできるようにしたい。今はこれなしでは…



2種類のボードを導入

ここで言えるのも必要性でした
身体をいたわりながら、相手もいたわれる
実感することはとても大切です

■ 今年度のトピックス No. 4

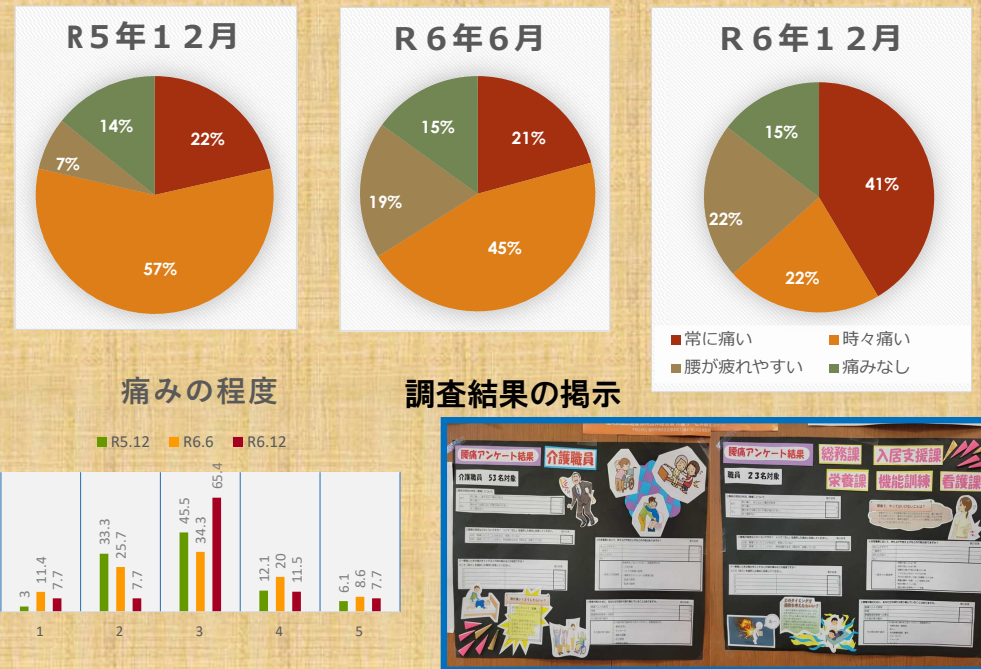
■ 追加メンバー ケアマネージャー2名で戦力拡大

- 新入居時アセスメントで現在の移乗方法を含めた情報の聴取
- ユニットでの情報提供で今できることを確認、計画書に反映
- 入居後、動作の確認
- 定期的カンファレンスにて福祉用具を含めたノーリフティングケアの立案・モニタリング・再構築、計画書へ反映

PDCAサイクルが少し回り始めた

現場で多職種が揃ったカンファレンスの再開で意見交換がスムーズに

腰痛調査の結果・・・どうして減らない？



腰痛調査結果の分析

腰痛保持者の負担を減らしたい！

ノーリフティングケア宣言をし、研修も開催し、福祉用具も講習しているのに...

なぜ、常に中等度以上の痛みを感じる職員が多いのか？

必要と感じていないからでは？

この腰痛調査で「中等度以上の腰痛保持者」に対して、集中的に取り組んでみてはどうか

- ・正しい身体の使い方の確認
- ・入居者の状態に応じた福祉用具の使用

変化の調査



まとめ

今年度は新しく迎えたメンバーに沢山教えてもらえた
「必要」と感じてもらうことを大切に。

目標

芽生え始めた芽を大切に育てたい。



職員への教育・指導を根気強く継続する

身体の使い方、器具の活用、リスクマネジメントと職員が必要と感じ広めあうことができるように導く。

全職域の職員が腰痛のない環境を作る

「抱え上げない、持ち上げない、引きずらない」と腰痛要因を全職域で撲滅。介護職においては苦痛のない介護が実践できる。

ずっと働き続けられる施設となる。

杜の家
もりのいえ